

第70回合志市地域公共交通協議会 【会議録要旨】

〔日時〕 令和6年1月25日（木）10時15分～

〔場所〕 合志市役所防災棟1階 避難所

〔出席者〕 坂本智子委員、野口チカ子委員、斉場俊之委員

徳丸和行委員、野田徹志委員、山野一平委員、小森田政憲委員

住吉隆典委員、白石勇人委員、横山朋弘委員、工藤康隆委員

原田和彦委員、笹原維俊委員、森山悠委員、作野淳一委員

〔代理出席〕 熊本タクシー協会 兜島 勇作

〔欠席者〕 松永信弘委員、祇園田征士委員、島田忠昭委員、二子石智子委員、

冨田廣志委員、上松秀樹委員、宗像正洋委員、田村正宜委員、

田内康敬委員、石原政孝委員、飯干修一委員

〔事務局〕 名垣会長、溝上副会長、松田市長公室長、佐藤企画課長、大久保課長補佐

〔議題〕

(1) 合志市地域公共交通計画の策定について

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

1 開会

佐藤企画課長が開会の宣言を行った。

2 会長あいさつ

名垣会長が以下のとおり挨拶をした。

これまで2回にわたる協議会、3回にわたる作業部会を経て今回が最終報告です。地域公共交通を取り巻く色々な課題、それから市民の方々の声、こういったものを全方位的な観点から捉えながら、計画書という形で今回ご提示をさせていただいております。今日は最後の協議会ですので、改めて全方位的な観点で忌憚のないご意見等をいただきながら良いものを作っていく、最終的にはご了承いただきながら、これから実行ベースに移るプロセス、という形で進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

司会から話がありましたけども、今日は市長の代わりに出る会合があるため途中で退席させていただきます。司会進行は溝上副会長にお願いしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

2 議題

議題 (1) 合志市地域公共交通計画の策定について

事務局より資料1、資料2、資料3について説明。

審議の結果、出席者の意見聴取を行うことを条件に原案どおり承認された。

【主な意見・質問など】

作野委員：TSMCができる等の色々な交通状況の変化を5年間は大体把握できているのか、それとも3年間くらいは把握できているのか、というのが一点。もう一つは、この計画を進めていく中で、例えば県外から合志市にきた人が感じている交通問題の聞き取りはされているのか。

事務局：一点目、施策を実行しなければ、交通渋滞は増え、また多数にご迷惑かかるような状況になるという事は事務局として把握している。この計画は随時見直しが可能な計画になっているので、修正・変更があれば随時見直す。

二点目、外からの流入者に対して聞き取り調査等を行っていないが、施策の内容として計画の86ページに、広域交通の強化というところで、合志市内だけではなくて市外や県外への移動を強化するために、市内のコミュニティ交通と高速バス停の接続と、新たな高速バス路線の要望について検討していく。

溝上副会長：前回の協議会でも、多くの方からTSMCの進出によって劇的に交通状況が変わり、これからも変わるだろうということなので、それをカバーしてほしいということと、それを機に外からお客さんも増えてくるため、広域な交通をどうやって上手に迎え入れて、かつ、中で楽しんでいただけるかというようなことを考えてくださいという話が出た。それで資料3に出た意見に対して、今言われた意見の后者の方については、いくつか今回の案に反映されている。TSMC等のところは下から3つ目、施策2-3です。御代志発からのセミコン通勤バスのようなものが必要ではないかということと、インターチェンジが新しくできるから外からくる人を温かく迎えるようなサービスというものを、この計画案には取り込んでおく必要があるということで、施策1-4に追記され、前回から加筆されている。

山野委員：地域公共交通計画(案)の4ページの上の方に表があるが、この中の市民一人当たりのコミュニティ交通運行委託費というところで、デマンド型のタクシーを導入することによって、無駄な経費が無くなるのではないかと。特に合生・上生線。ただ今年度の4月からタクシー料金が値上げになるので、その部分を見込んでこの目標値一人当たり1,700円を達成できるのか疑問。まだ値上げ幅がはっきりとは言われていないが、10%ぐらい上がると耳に入っているので、予算額の目標値がこれで十分なのかなと不安。

事務局：利用が増えることを目標に掲げ、乗合タクシーをデマンド化にすることによって、受益者負担、利用者の負担等を今後すべて含めて検討をしていくことで今と同水準の一人当たりの運行委託料・経費の目標設定をしているところ。

山野委員：利用者も増えるということを目指しているということか。

事務局：然り。利用者も増えることを目標に掲げておりますので、それによって経費自体も抑える、同額の同水準を保持したいと掲げている。

野口委員：デマンドはとても良いことだが、そのやり方や、増加させるための具体的な計画はあるのか。

事務局：今の乗合タクシーは定時定路線だが、今後検討していく上では定時定路線ではなく、時間や行き先をあらかじめ予約して、市民にとって利便性が高まる方向に検討を行っていきたい。

溝上副会長：今よりは便利になって、もっと使っていただけるという感触はある。そこで利用者が1.2倍と設定されています。

白石委員：前回欠席になってしまいましたが、前回いただいた資料の時にも事務局には個別で意見を出した。前回いただいた資料はレターバスや乗合タクシーにすごく特化している計画になっているように見受けられたので、地域公共交通計画は地域全体の交通計画である。今回修正されて、電鉄さんの鉄道・路線バスの目標値を追加し、前回より良くなったなと思うが、今回当日この大きな分量の素案を配られて、今日この場ですべての意見を出すことは困難。一定期間持ち帰ってご意見を出す時間を与えてほしい。

事務局：期間を設け、質問やご意見を聴取するので、期日等を後日連絡する。

溝上副会長：私もこの場ですべてを把握して良し悪し決めるのは困難だと思う。それを含めて今日の計画案を了解したとしていただくとありがたい。

横山委員：今説明いただいた内容で、課題から目標、施策、目標値と繋がりがあがる。利用者数を20%増やすことによって何がどう変わるか、というイメージは。

事務局：目標値の設定は、どこが適正なのかという判断が難しいが、現況値が77,700人ということで、この数字は令和2年以降のコロナ禍以前と、大体同水準には戻っています。公共交通事業者の中ではなかなかコロナ禍以前に利用者が戻らないと予測もある中で、合志市のレターバスはそこまで戻ってきつつある。ただそれ以前の利用については最大で92,000人くらいだったが、そこまでは戻したい。そこを目標にしてそれぞれの指標を出し、施策を行うことによってどう変わるのか、交通渋滞の緩和にどの程度対応できるかを示すことは難しいが、コロナ禍以前の高い水準に持っていくところで設定し、2割増しとしている。

斉場委員：今後の数値とか目標についての意見とか、かなりの部分で反映をしている。ありがとうございます。20%アップという計画値が、単なる自然増の回復待ちであってはいけない。自然増の回復待ちであれば、渋滞とか交通問題もそのまま同じだけ2割増していってしまう可能

性があるので、もっと利用が増える、自然増よりもっと増える状態で、公共交通をもっと活かすという考え方で計画を作っていただく姿勢が必要。よく見えないという部分もあったと思いますが、個人的に1月13日に交通に関する勉強会というのを開催し、先生をお呼びして市民の方、行政の方も来ていただいた。大津町や熊本市の方からも来ていただき、今よりアップするアイデアって結構ある。そこが見えてないのでこの数字設定がふわふわしてしまう。こういうアイデアを盛り込んだら2割上がる、チャレンジしよう、というのが計画である。こういうアイデアをこの計画の中に私の要望が少し盛り込まれているが、この計画を実施する過程の中でぜひ議論を深めて、色々なアイデアを盛り込んでこの数字を増やしていく、そういう計画の使い方、協議会での議論の仕方が必要では。

要望事項を二点だけ。一点、そのために声を集まる場や、アイデアを集める場というのをぜひ積極的に設定していただきたい。私も勉強会を開催してびっくりしたのは、ルーロ合志という旧西合志庁舎の会議室を借りたが、最初10人くらいかなと思っていたら30人以上来て、非常に皆さん関心が高い。でもその関心を証明する場所が、合志市の中に無いのかなと気付いた。熊本市とかは交通に関するフォーラムとかを市の主催とかでされていて、市の方が積極的に市民の方の意見を集める場と、市民の方に交通問題ってこういう風に解決できるかもしれないよ、という種を蒔いてほしい。種を蒔くとどうなるかという、質問がいっぱい出てくる。合志市の交通問題ってなんか不便だな、渋滞多いな、バス少ないな、乗り継ぎ悪くなって思っているけど解決方法が分からないから、みんなもややしながら過ごしている。これ解決方法があるかもしれないと思うと、意見が沢山出てくる。意見を沢山出してそこから良い方向に、アイデアというのを作っていく、そういう工夫が必要。多分パブコメにこの後出してもほとんど意見は出てこない。余程関心の高い人でないと出てこない。解決するための種、アイデアの種が市民に全然足りない。仕方がないとかどうしようもないとか、諦めが出ているので、これをみんなで解決していこう、みんなで良くしていこう、じゃあ自分はバスに乗り換えるわ、私は子供がいっぱいいるからバスには乗り替えられないけど、バスとか電車にかかる予算を上げるのは賛成するわとか、そういった形で市民が交通に関して色々な意見を出せるような機会、アイデアの提供の場を作ってほしいというのが要望事項の一点。

もう一つは作業部会でも申し上げたが、この公共交通協議会の議事録をインターネットにあげてほしい。公開の場という事でございますので、この議論というのを市民の方に示してくれないと、私たちがこういう議論をしているというのを市民の方に知ってもらうことができないので、これも交通問題を解決するっていうときの、最初の会話をするきっかけを作れない。行政だけで解決する問題でも、事業者の方だけで解決する問題でもない。

この計画の中にも書いてありますが、市民あって交通問題って解決すると私は思っている。そのための方法というのを行政には、その場の整理だとかを頑張っていただきたい。

事務局：課題を解決していくためにアイデアをいただく場として、市民の方から意見を聴取、聞く機会というのを設けていく。もう一点、会議録をホームページ上にアップする。遅くなり、申し訳ございません。

溝上副会長：課題7の次。市民の公共交通に対する考えが十分把握できていないからそれができるよ

うな仕組みや、あるいは議事録の公開とか、そういうのを一つ決められたらいいのでは。今のところそういうことができるような機会が十分でないということなので、そういうのがあると今のご意見が計画の中に反映されていくのではないかと。

作野委員：齊場さんの勉強会に参加して、その中で気づいたことは希望がある数字、確か交通車両が1割減れば渋滞が半減するという話があった。実際それが合志市に適用されるかはわからないが、そういった希望があるような数字を示すことで、市民も積極的に参加すると思う。例えばTSMCの通勤者が乗り合わせて、どこかのスーパーマーケットの駐車場を借りてそこから行くとか、ちょっとしたことが自分も参加できると思えば、みんな参加してくれる、自分で意識を持てるということがあるので、そういった数字を出すことは必要ではないか。

溝上副会長：コロナ禍でそれはまだ困難かと思いますが、今後そういう活動をみなさんに知っていただき、自分は何ができるだろうと考えてもらえるような機会を作っていくことは、進めていきたい。

住吉委員：資料2の7ページ、コミュニティ交通のサービス充実について運転士不足への対応とあるが、合志市として運転士不足の対応として具体的な対応策というのが何かありましたらお聞かせ願いたい。

事務局：計画の97ページ施策4-4。まず第2種の運転免許取得費用の支援を、事業者の方で行っていることを事業者ヒアリングで伺っております。市としてできることは求人情報の紹介、広報等で取り上げ、運転士の求人情報を広報紙等で周知し、運転士の確保に取り組む支援を行っていく予定。

齊場委員：私の勉強会でも出てきた話で、人手不足ではない、人件費不足。要するにいくら周知しても自分の生活に見合わない、バスの事業者様の給料水準が低いという話をしたいわけではないが、自分に見合わないと思ったら、いくら周知をしても人は集まらない、という現実があるからこそ今の問題が起きている、ということを知りしとかなければいけない。労働に見合わない対価の仕事には絶対人は来ないですね。それで今の問題を招いているということは確認して、そのための効果的な方法では周知するに留まらない部分、直接人件費補助ができるか分からないが、そこはもう少し議論を深めてより良いアイデアを作ってください方向で、ここに載せてほしいなと思います。周知だけに留まらないようにぜひお願いしたい。

溝上副会長：自治体を書く計画にそれが書けるかどうか分かりませんが。

齊場委員：すみません、今のは計画に載せてほしいというわけではないので、協議会の場で適さなかったかもしれませんが、目線は大事。課題に対してみんなできちんと向き合っておくことはすごく大切。運転士不足は事業者の責任だと放り出してしまうのは非常に無責任。これから私たちが街をより良くしていこうという中で、バスの本数を増やしたいけど運転手さんいませんってなったらできない。需要はあるのに需要に応えるだけの供給ができないってすごく

社会の仕組みとしてアンバランスというか、社会問題となっている。みんなで解決していかなければならない課題なので、それに対して協議会で一生懸命どういうことができるかそれを解決するための具体的なアイデアを出すことに時間を割きたい。熊本では帳面消しというが、計画にレ点を入れていく作業ではなくて具体的に実感として、運転士が増えました、バスの本数が増やせましたと電鉄さんに言っていたように議論、アイデア出していきたいなという思いを受け止めてほしい。

徳丸委員 : 一年前まで鉄道部長をやっておりました。先ほど住吉の方からも話が出た乗務員の不足についてですが、各バス事業者、通称5社と言われているが、5社の中でも運転士の給料という部分が非常に取り上げられている。各社全部一緒という事が理想ではあるが、それぞれ会社によって違いがある。我々も運転士を確保するという事も大事ですが、運転士の離職、辞めるのをいかに止めるかというのも非常に重要な問題。

白石委員 : 今までの話の続きで、国の方も運転士不足に対して色々な施策は用意しています。いくつか紹介すると、労働環境に合った待遇、運賃改定の仕組みを少し変えたり、あとは2種免許を取られる際の費用が結構かかり、それを事業者さんで支援されているので、それについて国の方で一定支援をしたりしている。以前は補助金を出すまでもなく、公共交通を当たり前維持できたかもしれないが、現在の人手不足ということで、あつて当たり前ということではなくなっている。地域にとっても鉄道、バス、タクシーすべて大事な財産なので、ぜひそれを今後も活かせるような計画の取り組みをやっていただきたい。先ほど広報だけ、周知だけ、ではという話もあったが、ただ求人がありますよという話だけではなくて、バスの運転士、タクシーの運転士、電車の運転士が地域にとってどれだけ貢献しているか、地域にとってどれだけ必要な方なのかということも併せて広報いただきたい。あとルートやダイヤを、例えば時間が長すぎるので運転士さんが2人必要なところを少し短縮して1人で回せるようにするなど、地域や行政の方で効率化して、少ない人間でも回せるような形にできる部分もあるかと思う。渋滞が発生している場所について時間をかけて道路を改築・改善していくなど、色々なことができるのではないかな。

4 閉会

佐藤企画課長が閉会宣言を行った。